

2024年3月19日

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂

能・狂言にもっと気軽に親しんでほしい

OTABISHO 横浜能楽堂

4月18日(木) ランドマークプラザにオープン!

能・狂言
ギャラリー&ショップ

横浜能楽堂 紅葉坂を下りて 街へ・ランドマークへ

横浜能楽堂は、1996年6月、みなとみらいを望む紅葉坂の上にオープンしました。650年以上にわたり継承されてきた日本の古典芸能、能・狂言を上演する専門の劇場です。東京・染井から移築した約150年もの歴史ある能舞台を有しています。

古典芸能がこれからも生き続けるためには、**伝統の継承**と共に、能・狂言を現代の視点から**再創造**することと、裾野をひろげる**普及**が必要です。横浜能楽堂では、企画性のある公演や、より多くの方に能・狂言を観ていただくための普及事業を、開館以来実施し、これまでにたくさんの方にご来場いただけてきました。

2024年1月から大規模改修工事のため、2年半の休館をしています。この機会に、横浜能楽堂は山を下ります。みなとみらいのランドマークプラザで、お客様がいつでも気軽に来ることができる能・狂言を紹介する場をひらきます。もっともっとたくさんの方たちに、能・狂言を知っていただきたい。休館期間中、横浜能楽堂は普及に力を注ぎます。

OTABISHO 横浜能楽堂 という名前は、神社の祭礼において神様が人々の前に御出でになる御旅所おたびしよになぞらえています。お祭のような休館期間中の2年間の、いわばポップアップストア。

ここでたくさんの方に能・狂言に親しんでいただき、2026年の再開館ではより多くのお客様を迎えたいと思っています。



OTABISHO 横浜能楽堂とは

「能・狂言って聞いたことはあるけど、よくわからない」「能・狂言って観てみたいけど、敷居が高すぎて…」「そもそも狂言は聞いたことあるけど、能ってなに？」能・狂言に対して、そのような印象を持っている方も多いのではないのでしょうか。

OTABISHO 横浜能楽堂 は、「見る・知る・体験する・学ぶ」のコンセプトで、**能・狂言を紹介するギャラリー**。今まで馴染みのなかった方たちに、能・狂言を知っていただいて、興味を持っていただけるような展示をします。「能・狂言ってなに？」に答える場です。

美しい能装束、様々な種類の能と狂言の面（次頁に詳細）、能の音楽を奏でる楽器などのほか、横浜能楽堂の舞台を再現した模型を展示。身近なものとならぶ能・狂言のつながりがわかる相関図、横浜能楽堂での上演写真と解説などを展示します。

能・狂言関連の本が読める図書コーナーも設置。わかりやすく解説した入門本や、図書館にもないような珍しい本も読むことができます。

能・狂言の紹介施設が、ショッピングモールに入るのは全国初。アクセス抜群のランドマークプラザで、能・狂言をもっと身近に！

気軽に能・狂言に親しむ場 講座も実施

OTABISHO 横浜能楽堂は、展示だけではありません。展示を見て能・狂言を知る、もっと知りたくなったら体験講座を受けてみる。さらに深く知りたくなったら講座で学んでみる。能・狂言をまったく知らなくても楽しめる、少し知っても楽しめる、もっと知りたくなった、にも応えていけるよう工夫していきます。

能の演目「^{どうじょうじ}道成寺」の主人公になり切って撮影ができるフォトスポットも用意しています。

能・狂言にまつわるグッズを販売

OTABISHO 横浜能楽堂では、来店記念に、ちょっと能・狂言を持ち帰っていただけるグッズを販売しています。和のテイストで、手土産にも使っていただけます。

能の面や道具をあしらった、伝統工芸「^{ちゅうせん}注染」のてぬぐいや、能の舞をモチーフにしたキャンディは、新しいオリジナル商品。横浜能楽堂公演時に販売していたやわらかい口当たりが人気の生らくがん「鏡板」も日にち限定で販売します。

そのほかに、能の名曲を香りで表現したお香や、能の一場面や装束を描いたポストカードや一筆箋、初心者にもおすすめの能楽入門書籍なども販売します。

OTABISHO というネーミングにこめた意味

^{おたびしょ}御旅所とは、神社の祭礼において神が人々と交流するために、本殿から^{おい}御出でになる場所のこと。神に捧げる芸能としての起源を持つ能楽。横浜能楽堂のある紅葉坂をまっすぐ下りると辿りつくランドマークプラザ。そこでの活動を御旅所になぞらえました。「OTABISHO」とアルファベット表記とすることで、街に合った場所づくりをするとともに、海外からの来訪者にも親しんでいただきたいと願っています。

展示内容

■ 能装束

能装束は、舞台上で能を上演するときに着用する装束です。演出によりさまざまな種類の装束が使用されますが、本展示では主に女性の役が上着として用い美しく豪華な模様を浮織りにした「唐織」や、男性や鬼の役に用いられることが多い「厚板」などを2点展示します。2か月に1度展示替えを行うので、続けて来ていただくことで様々な装束をご覧いただけます。

製作：山口能装束研究所（所長 ^{やまぐちあきら} 山口憲）

山口憲 能装束研究者。1968年より江戸期能装束の調査研究開始。1984年山口能装束研究所設立。能装束修復や復原を行い、それらの展覧会を国内外で多数手がける。2004年外務大臣表彰受賞。著書に「能装束の世界」など多数。
※一般の方の写真撮影はご遠慮いただきます。



夕顔扇牡丹秋草文様 紅地胴箔

■ 能面・狂言面

能では、使用される仮面のことを能面^{のうめん}と呼びます。老人や女性、鬼など、多くの役に用いられ、代表的な能面だけでも50種類以上あります。能面というと無表情を表す言葉として使われたりしますが、僅かな角度や光の変化によって様々な表情を見せます。狂言でも、動物や亡霊など一部の役柄で仮面を用い、狂言面と呼ばれます。そうした能面や狂言面を、毎月テーマを決めて3点ずつ、月替わりで展示します。

製作：岩崎久人（いわさきひさと）

能面作家。1974年、独学にて能の面を志し、1976年より「面の会」を主宰。

これまでに打った面は200を超える。舞台上で用いることができる面を打つことができる能面作家は、極めて少ないが、岩崎氏の能・狂言面はその多くが舞台上で使用され、プロの能楽師からの信頼も厚い。横浜市在住。



小面

■ 能舞台

横浜能楽堂とパンタグラフの井上仁行が能舞台模型でコラボレーション！

休館中は能舞台を見ることができないため、その独特な構造を理解いただけるよう模型の展示を行います。

製作は、横浜市内に工房・スタジオを持つ、立体造形専門アーティストユニット・パンタグラフの井上仁行。井上は父親が能の師範であり、自らも能を習っています。模型は1/24の大きさと、アクリルスタンドなどを立てて写真を撮影するなど、様々な楽しみ方ができます。

製作：井上仁行^{いのうえまさゆき}（パンタグラフ/立体・アニメーション・ゾートロープ作家）

立体造形専門のアーティストユニット『パンタグラフ』を主宰。書籍・広告グラフィックやCM・短編アニメーション・ゾートロープ制作など幅広い分野で活動。2015年 動きのカガク展（21_21 DESIGN SIGHT）、2015年～ 小学校算数・中学校数学教科書（学校図書）メインビジュアル、2018年 デザインあ展など。

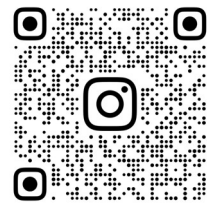


横浜能楽堂本舞台

- ◆オープン日 2024年4月18日(木) 11:00
- ◆施設名称 OTABISHO 横浜能楽堂 (読み方: おたびしょ よこはまのうがくどう)
- ◆場 所 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 ランドマークプラザ5階
桜木町駅(JR・市営地下鉄)から動く歩道で徒歩5分
みなとみらい駅(みなとみらい線)から徒歩3分
- ◆営業日・時間 11:00~20:00 休業日: ランドマークプラザの休館に準ずる
- ◆入 場 方 法 入場無料 予約不要
- ◆対 象 能・狂言はよくは知らないけど興味がある方
日本文化に興味がある方
能・狂言が好きな方
※解説は概ね中学生くらいが理解できる内容で構成しています
- ◆外国語表記 解説には英語を併記
- ◆見学所要時間 10分から30分
- ◆展示ディレクション
矢内原充志(有限会社スタジオニブロール)
横浜能楽堂
- ◆運 営 横浜能楽堂(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
- ◆問 合 せ 横浜能楽堂 TEL: 045-263-3055 (9:30~18:00)
nougaku@yaf.or.jp

OTABISHO 横浜能楽堂 Instagram スタート!

能・狂言を親しみやすく、楽しく紹介するメディアとして
OTABISHO 横浜能楽堂 公式のInstagram を開設しました。



OTABISHO_YOKOHMANOUGAKUDOU

プレス関係の方のお問合せ先

横浜能楽堂 / 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

<https://yokohama-nohgakudou.org/>

TEL: 045-263-3050 ※一般の方向けと電話番号が異なります

支配人 上野 千佳 広報担当 宮野 律子・齊藤 実雪

メール: nougaku@yaf.or.jp ※写真、ロゴデータが必要な場合はお申しつけください